

「種をまく時」 校長 村上俊一

桜の花が開き、暖かい春を迎えました。田畑には作物の苗を植える準備が始まり、花壇には花の種をまく、全ての命が始まる活気あふれる時季です。全てのものには、時季があります。「時季」とは、時節、季節のことです。農作業をする人なら、いつ、どんな種をまけばよいかを経験から知っています。まき時を間違えれば成長が遅れるだけでなく、時には実らぬこともあります。

人生でも同じことが言えます。人生の種まき時は、何といっても小学生・中学生の時です。読み・書き・計算だけでなく、人として学ばなければならぬ道徳観・倫理観や礼儀作法、コミュニケーション能力やマナーも身につけなければなりません。若いうちにそれらを習得することが、人生を切り拓いていく力となります。

中国の陶潜（陶淵明）の「雑詩」に有名な言葉があります。

『盛年重ねて来たらす 一日再び農なり難し 時に及んで当に勉励すべし 歳月は人を待たず』

（よい時機を失わずに勉め励め。年月は人を待っていてはくれないのだ。）